

栄鉄鋼商事株式会社 環境経営レポート

Sustainability Report

2017年度

活動期間(2017年4月～2018年3月)

作成日;2018年12月18日

SAKAE STEEL CORPORATION



2017年度 Sustainability Report

Contents

1. 事業の概要

- 1-1. 会社プロフィール
- 1-2. 許認可
- 1-3. 施設の状況

2. 環境活動計画

- 2-1. 環境理念と環境基本方針
- 2-2. EA21実施体制について
- 2-3. 環境目標
- 2-4. エコプロジェクト
- 2-5. エコプロジェクト実施上の改善・見直し

3. 2017年度の環境活動実績

- 3-1. 環境目標の達成状況
- 3-2. 主要環境指標の推移及び各指標の評価・改善

4. 環境コミュニケーションの状況

5. 環境上の緊急事態の想定結果及びその対策

- 5-1. 緊急事態の想定結果及びその対策
- 5-2. 訓練結果

6. 関連法規

- 6-1. 関連法規一覧
- 6-2. 関連法規の順守に向けた体制

7. 全体の取り組み状況評価と改善項目

コラム～シンプルエコファクトリー「三郷エコロジー」

1. 事業の概要

私たち栄鉄鋼商事(株)は、「物流」「環境」をトータルにマネジメントし、効率的なサービスを提供します。特に環境部門においては産業廃棄物処理業を中心に、地域そして企業のエコ化推進役として、3R活動(リデュース、リユース、リサイクル)を強力にサポートアップしていきます。例えば、資源のリサイクル、分別の徹底化や運送の効率化により、再資源化コストを抑制し、地域企業にとってより容易で適正な産業廃棄物処理サービスを提供することを目指します。

1-1. 会社プロフィール(2018年3月現在)

会社名 栄鉄鋼商事株式会社
代表取締役 江井 弘

対象事業所

- ・本社 〒121-0816 東京都足立区梅島2-18-5
TEL 03(3887)0750 Fax 03(3887)0558
環境管理責任者 広報部長 江井 すわ子
環境担当者 広報部長 江井 すわ子
- ・三郷エコロジー 〒341-0055 埼玉県三郷市泉3-8-3
(三郷事業所) TEL 048(949)1304 Fax 048(949)1305
センター長 磯部 洋生
- ・番匠免ロジスティクスセンター 埼玉県三郷市番匠免1-323
A棟40坪 B棟60坪 (資材倉庫)

対象事業活動 産業廃棄物収集運搬業(保管積替えを含む)、運送、
産業廃棄物処分業、鉄鋼材の加工販売

創業年月日 1970年10月2日
資本金 15,000,000円
決算期 毎年9月末日
売上高 374百万円 第48期
床面積(本社) 73㎡
床面積(三郷エコロジー) 1,155㎡

役員・社員 役員・本社 2名
本社 2名
三郷エコロジー 22名

主たる得意先 (1)株式会社 岡村製作所
(2)砂畑産業 株式会社
(3)日本ロジテム 株式会社

主たる取引銀行 (1)三井住友銀行 千住支店
(2)東日本銀行 西新井支店

1. 事業の概要

1-2. 許認可

(1) 産業廃棄物処分業許可証一覧

所在地: 三郷エコロジー 〒341-0055 埼玉県三郷市上口3-8-3

許可都県	許可年月日 有効期限	許可番号	施設の種類	処理能力	品目
埼玉県	平成28年9月11日 平成33年9月10日	第1120009036号	破砕施設	1.58t/日	廃プラスチック類
				2.11t/日	木くず
			破砕施設	1.16t/日	廃プラスチック類
			圧縮施設	4.48t/日	廃プラスチック類

(2) 産業廃棄物収集運搬業許可証一覧

認可都県	許可年月日 有効期限	許可番号	品目
東京都	平成30年10月29日 平成35年10月28日	第1300009036号	廃油、※廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず※がれき類(※石綿含有産業廃棄物を含む)
埼玉県	平成25年12月24日 平成30年12月23日 (積替・保管を含む)	第1110009036号	(収集運搬) ※廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、※ガラス・コンクリート・陶磁器くず、※がれき類(※石綿含有産業廃棄物を含む) (積替え保管を含む) ※廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
神奈川県	平成26年3月11日 平成31年3月10日	第1401009036号	廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
千葉県	平成26年1月7日 平成31年1月6日	第1200009036号	廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
山梨県	平成26年7月23日 平成31年7月22日	第01900009036号	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類
長野県	平成26年9月11日 平成31年9月10日	第2009009036号	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類
静岡県	平成26年9月25日 平成31年9月24日	第02201009036号	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類
茨城県	平成26年3月31日 平成31年3月29日	第0801009036号	廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
栃木県	平成26年3月31日 平成31年3月30日	第0900009036号	廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
群馬県	平成30年10月29日 平成35年10月28日	第1000009036号	※廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、※ガラス・コンクリート・陶磁器くず※がれき類(※石綿含有産業廃棄物を含む)

(3) 一般貨物自動車運送事業

許可名	許可番号	有効期限
一般貨物自動車運送事業	関自貨2第3355号	特に無し

1. 事業の概要

1-3. 施設の状況

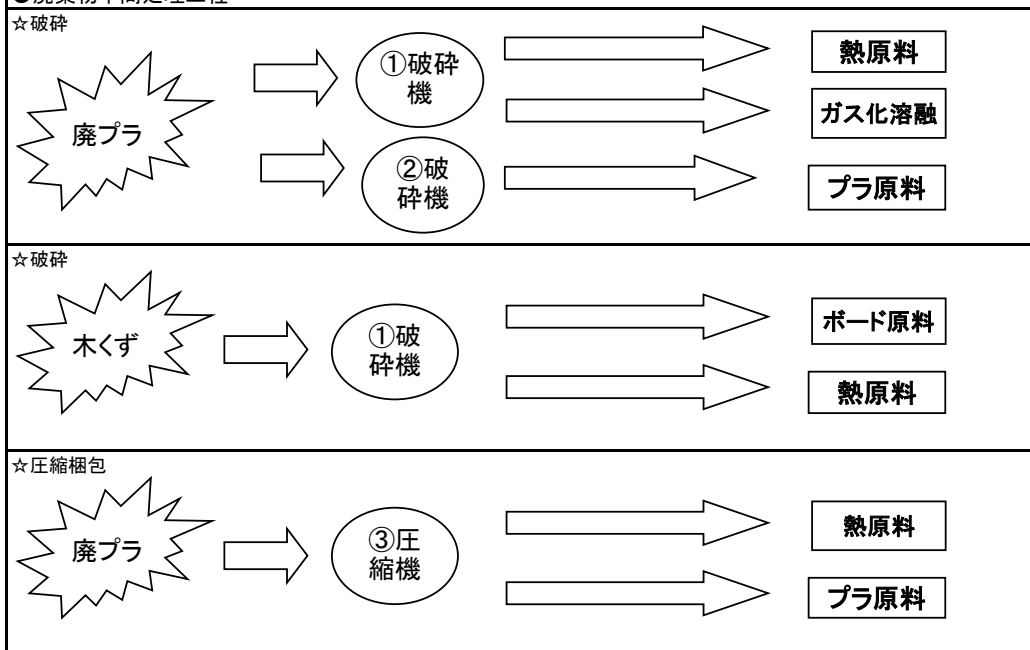
(1) 収集運搬業

●運搬車両の種類と台数	4トンワイド 1台	4トン パッカー車 2台	
	4トン アームロール車 2台	4トン 平ボディ車 6台	
	2トン 平ボディ車 5台	ワゴン車 1台	3トンユニック 1台
●産業廃棄物収集運搬量	収集運搬量 合計 4,376トン		
●積替保管施設(三郷エコロジー)	所在地: 埼玉県三郷市泉3-8-3(1155㎡) 積替え保管種類: 廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス陶磁器・コンクリートくず 積替え保管面積 69.9㎡ 積替え保管保管上限 高さ 1.5m		

(2) 中間処分業

●処理方式、処理する産業廃棄物の種類、設置場所、設置年月日、処理能力(規模)、構造及び設備の概要等	【三郷エコロジー(三郷事業所)】 所在地: 埼玉県三郷市泉3-8-3(1155㎡) ①処理方式: 破砕 ・廃プラスチック類 平成18年9月11日設置 1.58t/日(8時間) ・木くず 平成18年9月11日設置 2.11t/日(8時間) ②処理方式: 破砕 ・廃プラスチック類 平成18年9月11日設置 1.16t/日(8時間) ③処理方式: 圧縮梱包 ・廃プラスチック類 平成18年9月11日設置 4.48t/日(8時間)
	●産業廃棄物中間処理量 中間処理量 合計 993トン

●廃棄物中間処理工程



2. 環境活動計画

栄鉄鋼商事(株)では、環境産業の一翼を担う者として、次に掲げる環境活動計画に基づき、地域環境に配慮した企業活動を行うものとします。

2-1. 栄鉄鋼商事の環境理念と環境基本方針

環境理念

循環型社会の一員としての、自覚と認識を持ち、社会に貢献し、責任ある行動をする。

環境基本方針

栄鉄鋼商事株式会社は、輸送・廃棄処理・保管・鉄加工販売等の諸活動を通じて、社会や環境との共生・調和、地球環境の保全に取組み、継続的な環境負荷の低減を目指して以下の通り環境方針を定める。

1. 環境に関する法律及び協定等を厳守する。
2. 廃棄物の適正処理と地球環境負荷の低減を推進する。
 - (1) 廃棄物の徹底した選別と分離をよびかける。
 - (2) リサイクルを推進し、処分場への減量化に努める。
 - (3) 周辺地域への環境保護に努める。
 - (4) 省エネによる二酸化炭素排出量削減に努める。
 - (5) 貴重な水資源を効率的に活用し使用量の削減に努める。
 - (6) グリーン購入の推進に努める。
3. 環境目的・目標を定め、社会事情・事業活動の変化に応じて目的・目標の見直しを行う。
4. 環境監査システムを運用し継続的な改善と環境保全を推進する。
5. 環境教育プログラムを実施し意識と知識の向上を図る。

2005年5月28日制定

2016年5月30日改定

栄鉄鋼商事(株)
代表取締役 江井 弘

2. 環境活動計画

2-2. EA21 実施体制について

●全体責任者(社長)

年に1度、総合的な評価を行う。

[主な役割]

- ・理念および環境方針の策定・改定
- ・全体的な見直し・評価
- ・経営資源の提供

●環境管理責任者

EA21全体のとりまとめ。部門長、担当者に必要な事項の指示を行う。

月例会議では、議事進行を行う。

[主な役割]

- ・エコアクション活動全体の進行管理
- ・エコアクションの企画
- ・部門長、担当者等への指示

●部門長

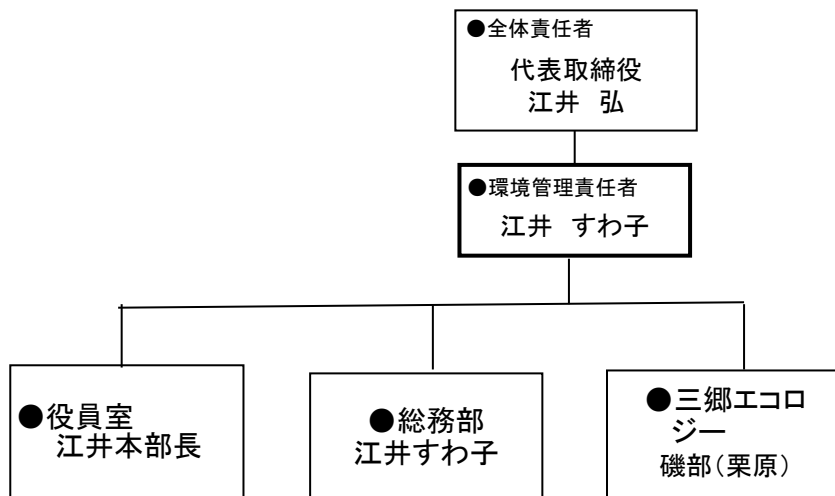
それぞれの部門のエコアクション活動の企画、実施、とりまとめを行う。

各部門データの収集・集計を行う。

[主な役割]

- ・各種データの収集・集計
- ・エコプロジェクトの推進
- ・各部門のエコアクション活動の企画立案
- ・各担当者への決定事項の伝達

エコアクション21運用体制



2. 環境活動計画

2-3. 環境目標

環境理念および環境基本方針に基づき、環境目標を定め、平成27年4月から3ヶ年度で、以下の目標を達成すべく、環境活動を全社的に取り組むこととし、2010年度から電力・ガソリンを追加し、原単位での比較が必要な軽油は、燃費での比較を開始した。

目標	部門	基準値 (2014年度)	目標値			備考
			2015年度	2016年度	2017年度	
二酸化炭素排出量(kg-CO2)を3%削減する	本社	8,022	7,781	7,548	7,321	2014年度の排出量を基準とする(次項も同様)
	三郷エコロジー	245,511	238,146	231,001	224,071	
	全体	253,533	245,927	238,549	231,393	
電力使用量(kWh)を3%削減する	本社	6,999	6,789	6,585	6,388	本社、三郷エコロジーが対象
	三郷エコロジー	16,390	15,898	15,421	14,959	
	全体	23,389	22,687	22,007	21,347	
軽油の燃費(km/ℓ)を3%向上する	本社	-	-	-	-	ディーゼル車のみ対象
	三郷エコロジー	3.90	3.8	3.7	3.6	
	全体	3.90	3.8	3.7	3.6	
ガソリン使用量(ℓ)を3%削減する	本社	2,316	2,247	2,179	2,114	通勤車及び三郷エコロジーのフォークリフトが対象
	三郷エコロジー	3,056	2,964	2,875	2,789	
	全体	5,371	5,210	5,054	4,902	
廃棄物のリサイクル率を88%まで向上させる(収集運搬)	本社	-	-	-	-	収集運搬、積替保管等弊社を経由する廃棄物等が対象
	三郷エコロジー	94%	91%	88%	86%	
	全体	94%	91%	88%	86%	
廃棄物のリサイクル率を100%を維持する(中間処分)	本社	-	-	-	-	弊社中間処分場を経由する廃棄物等が対象
	三郷エコロジー	100%	100%	100%	100%	
	全体	100%	100%	100%	100%	
グリーン購入比率を34%以上にする	本社	46.0%	45%	43%	42%	事務用品、消耗品のアイテム数で算出
	三郷エコロジー	50.0%	49%	47%	46%	
	全体	48%	47%	45%	44%	
事業系一般廃棄物(kg)を3%削減する	本社	307	298	289	280	紙、包装等
	三郷エコロジー	141	137	133	129	
	全体	448m ³	434.6m ³	421.5m ³	408.9m ³	
水使用量を年200m ³ 以下にする	本社	42.0m ³	40.7m ³	39.5m ³	38.3m ³	現状程度を維持する
	三郷エコロジー	171.0m ³	165.9m ³	160.9m ³	156.1m ³	
	全体	200m ³ 以下	200m ³ 以下	200m ³ 以下	200m ³ 以下	

【廃棄物のリサイクル率の定義】

収集・運搬及び中間処分のリサイクル率は、最終処分先とリサイクル先の運搬及び搬出割合にて算出。

【グリーン購入の定義】

グリーン購入法・エコマーク・GPNエコ商品ねっと掲載のいずれかに該当すると確認ができた商品を対象に、弊社購入アイテム数(一般管理費の内、事務用品費、消耗費、雑費の物品)との割合にて算出。

※データ基準年度、2014年度：2014年4月～2015年3月

2015年度：2015年4月～2016年3月 二酸化炭素排出係数 0.000522

2016年度：2016年4月～2017年3月 二酸化炭素排出係数 0.000496

2017年度：2017年4月～2018年3月 二酸化炭素排出係数 0.000474

2. 環境活動計画

2-4. エコプロジェクト(環境への取組状況)

栄鉄鋼商事(株)では、環境目標を実現するために、以下に掲げる39のエコプロジェクトに取り組み、毎月その進捗状況をモニタリングすることで、環境管理の柱としている。

目標分類	エコプロジェクト	具体的な内容	番号
二酸化炭素排出量削減	1. 不必要な照明は消す	昼食時に室内の2/3を消灯する	1
		PM5:30以降は必要な場所以外は消す	2
		昼食・休憩時間以外の休憩室は消灯する(三郷)	3
	2. 週末は電源OFFにする	省電コンセントで一括電源OFFにする	4
	3. 冷暖房を管理する	暖房は20℃とする	5
		冷房は28℃と定め扇風機を併用する	6
		フィルター掃除を第二・第四金曜日に行う	7
		簾、カーテンを設置する	8
	4. ノーカーデーを設ける	毎週水曜日をノーカーデーにする(本社)	9
	5. 冷蔵庫の霜取りを行う	第二金曜日に行う。	10
	6. 室内外を緑化する	一坪程度の屋外緑化エリアを設置する(本社)	11
		屋外プランター、屋内盆栽を設置する(本社)	12
	7. パソコン利用を見直す	常時稼働しているサーバーをなくす(本社)	13
		最終帰宅者が電源オフを確認する	14
	8. エコドライブを実施する	乗車の度、チェックリストに記入する	15
		優良ドライバーを表彰する	16
リサイクル率向上	1. 廃プラを100%リサイクルする	分別体制を構築する	17
		マテリアルリサイクルの処理ルートを開拓する	18
		サーマルリサイクルの処理ルートを開拓する	19
	2. 木屑を100%リサイクルする	分別体制を構築する	20
		サーマルリサイクルの処理ルートを開拓する	21
	3. 金属を100%リサイクルする	鉄、アルミ、ステンレスの分別を徹底する	22
	4. リサイクル全般を推進する	付着付石膏ボードの分離作業の徹底	23
		紙の徹底的な分別を顧客に勧める	24
がれき類の処理ルートを開拓する		25	
グリーン購入向上	1. エコマーク商品を購入する	エコマーク商品を優先的に調達する	26
		グリーン購入台帳をつくる	27
	2. 再生紙を利用する	名刺、封筒を再生紙利用に切り替える	28
		プリンター・コピー用紙に、再生紙を利用する	29
一般廃棄物削減	1. 紙を裏面利用する	印刷用トレーに常備裏紙を使用する	30
	2. 封筒を再利用する	社内・社外の書類受渡等に利用する	31
	3. 包装を簡略化する	買い物時に袋を断る	32
	4. ペーパーレス化を進める	電子メール、ネットサーバーを利用する	33
	5. ゴミを分別する	可燃、不燃、紙・段ボール、ビン・缶に分ける	34
紙・段ボール、ビン・缶はリサイクルにする		35	
水使用量の削減	1. 雨水の利用	雨水を貯水し洗車時に使用する	36
		雨水を貯水し植木への散水に使用する	37
	2. 節水する	節水弁を設置し水の使用を制限する	38
		トイレの貯水タンクに水入りペットを設置する	39

2. 環境活動計画

2-5. エコプロジェクト実施上の改善・見直し(次年度の取組内容)

ここまでの評価と改善方向をふまえ、それぞれのエコプロジェクトの本格的な実施にあたり下記のようなポイントに留意することとする。

A. CO2を6%削減する

エコプロジェクト	具体的な内容	改善・見直し
1. 不必要な照明等は消す	昼食時に室内の2/3を消灯する	担当がチェックし実施してるので継続
	PM5:30以降は必要な場所以外は消す	効果がでているので継続
	昼食・休憩時間以外の休憩室は消灯する(三郷)	くもりや雨以外は消灯
2. 週末は電源OFFにする	省電コンセントで一括電源OFFにする	購入予定(設置していない箇所)
3. 冷暖房を管理する	暖房は20℃とする	消し忘れの徹底済み
	冷房は28℃と定め扇風機を併用する	消し忘れの徹底済み
	フィルター掃除を第二・第四金曜日に行う	問題点が出ていないのでこのまま継続
	簾、カーテンを設置する	まだ一部しか出来てないので前面に設置
4. ノーカーデーを設ける	毎週水曜日をノーカーデーにする(本社)	実施済み
5. 冷蔵庫の霜取りを行う	第二金曜日に行う。	問題点が出ていないのでこのまま継続
6. 室内外を緑化する	一坪程度の屋外緑化エリアを設置する(本社)	済み
	屋外プランター、屋内盆栽を設置する(本社)	済み
7. パソコン利用を見直す	常時稼働しているサーバーをなくす(本社)	済み
	最終帰宅者が電源オフを確認する	最終帰宅者が必ず責任を持って消す
8. エコドライブを実施する	乗車の度、チェックリストに記入する(本社)	タコグラフ導入の検討
	優良ドライバーを表彰する	エコを取り入れ、乗務員教育を徹底し表彰の方法を検討

B. 廃棄物のリサイクル率を10%向上する

エコプロジェクト	具体的な内容	改善・見直し
1. 廃プラを100%リサイクルする	分別体制を構築する	5~7種類分別の徹底
	マテリアルリサイクルの処理ルートを開拓する	軟質系、硬質系の分別の徹底
	サーマルリサイクルの処理ルートを開拓する	新規処理場は開拓済み、価格面で検討中
2. 木屑を100%リサイクルする	分別体制を構築する	2種類分別の徹底
	サーマルリサイクルの処理ルートを開拓する	新規処理場の開拓済み
3. 金属を100%リサイクルする	鉄、アルミ、ステンレスの分別を徹底する	社員への細かな教育、特殊分別指導
4. リサイクル全般を推進する	付着物付石膏ボードの分離作業の徹底	分別・分離の徹底
	紙の徹底的な分別を顧客に勧める	サーマルの処分場を開拓済み
	がれき類の処理ルートを開拓する	一部ガス化熔融だが大部分埋立処理、検討

C. グリーン購入比率を50%以上にする

エコプロジェクト	具体的な内容	改善・見直し
1. エコマーク商品を購入する	エコマーク商品を優先的に調達する	アスクル等エコマークを優先的に購入
	グリーン購入台帳をつくる	継続
2. 再生紙を利用する	名刺、封筒を再生紙利用に切り替える	100%利用済み
	プリンター・コピー用紙に、再生紙を利用する	植林木パルプ利用紙を使用

2. 環境活動計画

D. 事業系一般廃棄物を10%削減する

エコプロジェクト	具体的な内容	改善・見直し
1. 紙を裏面利用する	印刷用トレーに常備裏紙を使用する	社内文書は必ず裏面利用を継続
2. 封筒を再利用する	社内・社外の書類受渡等に利用する	社外に利用できるよう、作成の仕方に工夫
3. 包装を簡略化する	買い物時に袋を断る	全体への推進済み
4. ペーパーレス化を進める	電子メール、ネットサーバーを利用する	メールアドレス全員に完備済み
5. ゴミを分別する	可燃、不燃、紙・段ボール、ビン・缶に分ける	紙の分別を徹底する
	紙・段ボール、ビン・缶はリサイクルにする	問題点がないので、このまま継続

E. 水使用量削減

エコプロジェクト	具体的な内容	改善・見直し
1. 雨水の利用	雨水を貯水し洗車時に使用する	タイヤの洗浄のみ利用
	雨水を貯水し植木への散水に使用する	利用済み
2. 節水する	節水弁を設置し水の使用を制限する	今後の状況にて検討
	トイレの貯水タンクに水入りペットを設置する	使用毎に500ml.の節水効果

3. 2017年度の環境活動実績

2014年4月から2017年3月までの環境活動について、その実績を示す。

3-1. 環境目標の達成状況

2017年度の環境目標達成状況は次の通りである。

目標	部門	基準値 (2014年度)	2017年度 目標値	2017年度 結果	備考
二酸化炭素排出量(kg-CO2)を1%削減する	本社	8,022	7,321	11,354	× 目標を達成出来なかった。
	三郷エコロジー	245,511	224,071	188,833	◎ 目標を達成した
	全体	253,533	231,393	200,187	◎ 目標を達成した
電力使用量(kWh)を1%削減する	本社	6,999	6,388	7,124	× 目標を達成出来なかった。
	三郷エコロジー	16,390	14,959	20,772	× 目標を達成しなかった
	全体	23,389	21,347	27,896	× 三郷の電力使用量をチェック
軽油の燃費(km/ℓ)を1%向上する	本社	-	-	-	-
	三郷エコロジー	3.90	3.56	5.67	× 目標を達成出来なかった。
	全体	3.90	3.56	5.67	× 目標を達成出来なかった。
ガソリン使用量(ℓ)を1%削減する	本社	2,316	2,114	3,436	○ ガソリン使用量がかなり上昇した
	三郷エコロジー	3,056	2,789	3,259	× 目標を達成出来なかった。
	全体	5,371	4,902	6,695	× 目標を達成出来なかった。
廃棄物のリサイクル率を86%まで向上させる(収集運搬)	本社	-	-	-	-
	三郷エコロジー	94%	86%	83%	× 目標を達成出来なかった。
	全体	94%	86%	83%	× 目標を達成出来なかった。
廃棄物のリサイクル率を100%を維持する(中間処分)	本社	-	-	-	-
	三郷エコロジー	100%	100%	100%	◎ 達成
	全体	100%	100%	100%	◎ 達成
グリーン購入比率を32%以上にする	本社	46.0%	42%	81%	◎ 目標を達成努力の跡がみえる
	三郷エコロジー	50.0%	46%	66%	◎ 目標を達成努力の跡がみえる
	全体	48%	44%	74%	◎ 目標を大幅に達成
事業系一般廃棄物(kg)を1%削減する	本社	307.00	280	52	◎ 目標を大幅に達成
	三郷エコロジー	141.00	129	88	○ 目標達成
	全体	448.00	409	140	◎ 目標を大幅に達成
水使用量を年200m3以下にする	本社	42	38.3	45	× 上回ってしまった。
	三郷エコロジー	171	156.1	171	× 上回ってしまった。
	全体	200m ³ 以下	200m ³ 以下	200m ³ 以下	× 目標を達成できなかった。

3. 2017年度の環境活動実績

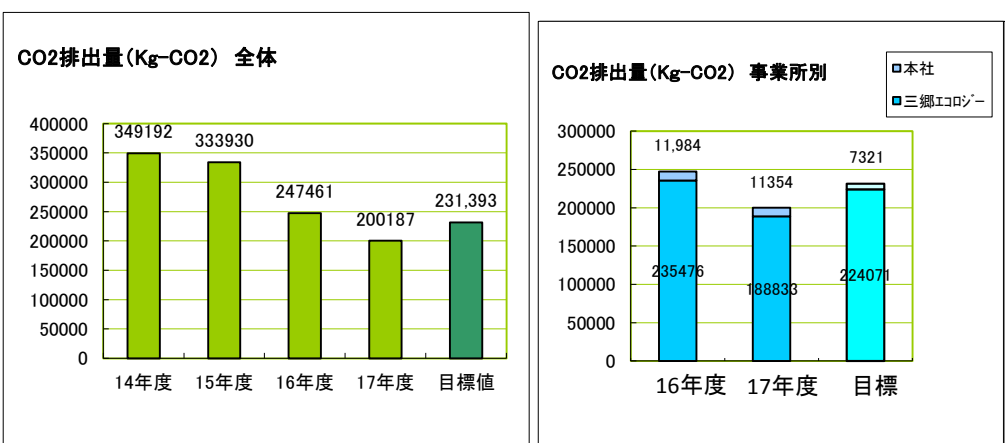
2016年4月から2017年3月までの環境活動について、その実績を示す。

3-3. 主要環境指標の推移及び各指標の評価・改善

基準年である2014年度に比べると、CO2削減は毎年確実に減少しているが個別的看着ていくと改善点が多くあるので今後もエコ

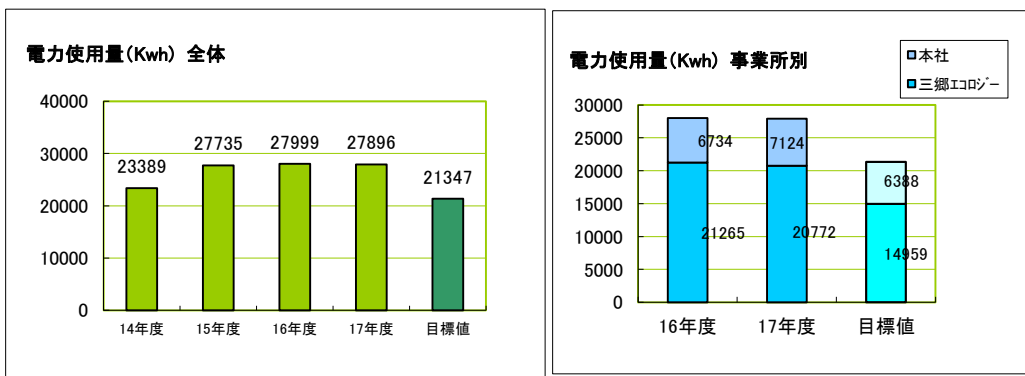
(1) 総エネルギー投入量・CO2排出量の評価・改善

総エネルギー投入量、CO2排出量ともに目標を達成できた。前年比20%程削減した。三郷の電力使用量、ガソリン使用量は昨年比べて大きく減少し目標に達成することができた。しかし本社の排出量が大きく増加したので原因を分析し、改善に努めたい。



購入電力量の評価・改善

全体・全体として目標に達成することはできなかったが個別にみていると三郷エコロジーは昨年度に比べ若干の減少となっているので現状維持にとどまったと思われる。本社の購入電力が増えているので日々の努力を初心に戻って行ってほしい



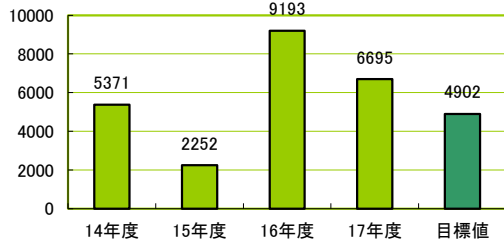
3. 2017年度の環境活動実績

2017年4月から2018年3月までの環境活動について、その実績を示す。

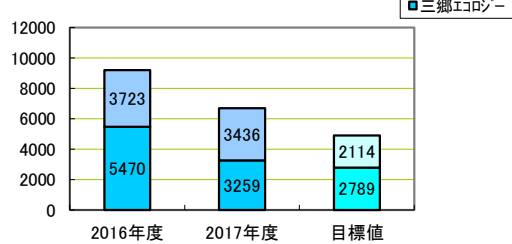
(3) ガソリン使用量・軽油使用量

【ガソリン使用量】昨年に比べ大幅に減少した。特に三郷エコロジーは40%削減を達成した。本日も微減をしているのが基準年と比べると増加をしているので今後とも使用量抑制に努めたい
 軽油使用量は年ごとに減少し今年も昨年よりは17%減となっているが燃費が昨年より大幅に下がっているため原因を明らかにし対策を講ずる必要がある

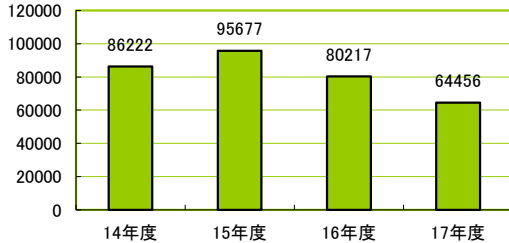
ガソリン使用量(ℓ) 全体



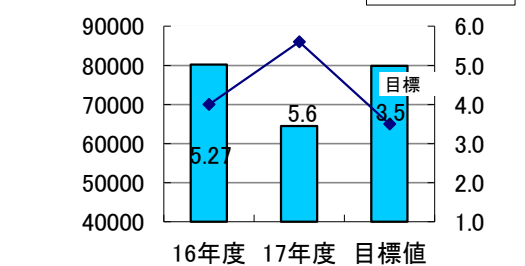
ガソリン使用量(ℓ) 事業所別



軽油使用量(ℓ) 全体



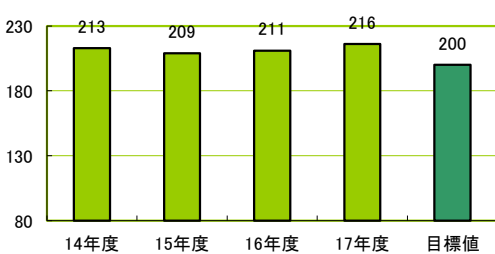
軽油使用量(ℓ)と燃費



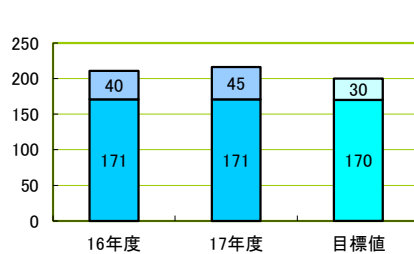
水使用量

水使用量は、最終の目標値を達成できなかった。本日が前年より増えたのは温暖化の影響で植物の水やりの量がかかり多くなったためと思われる

水使用量(m³) 全体



水使用量(m³) 事業所別

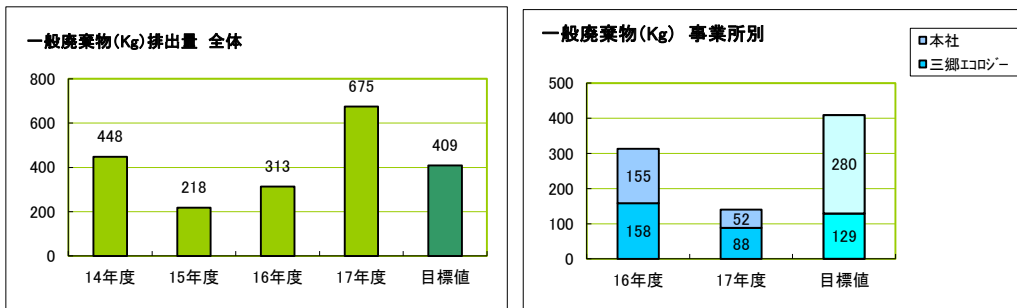


3. 2017年度の環境活動実績

2017年4月から2018年3月までの環境活動について、その実績を示す。

(5) 一般廃棄物排出量

一般廃棄物排出量は前年度大幅に減少した。原因は今まで一般廃棄物処理していた紙を再生利用処理することにしたため。

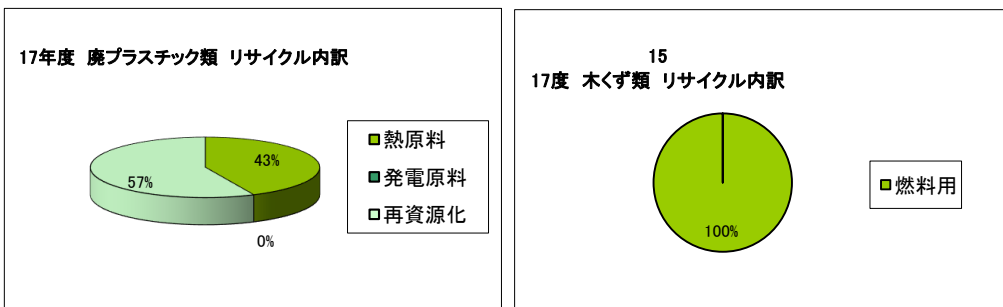
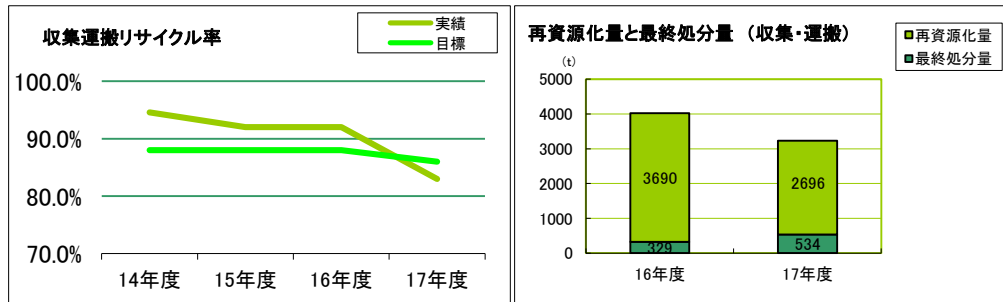


収集運搬・産廃リサイクル率

収集運搬・産廃リサイクル率は本年も90%を超えることが出来た。近年廃プラスチックの最終処分をゼロとし再利用するように努めている。がれき以外は100%の再利用率となっている

中間処分・産廃リサイクル率

弊社中間処分場では「きめ細かなリサイクル」を掲げ、廃プラは質の良い軟質・硬質系プラスチック(主にオレフィン系)は再資源化、質の悪いプラスチックはRPF原料ならびにガス化溶融材にてリサイクルしている。木くずはも同様に100%の再利用率となっている



4. 環境コミュニケーションの状況

環境産業の一端を担うものとして、弊社では下記のように環境情報の提供や地域活動を行います。

(1) CSRレポートを年1回発行

エコアクション21認証取得により、一般財団法人持続性推進機構のサイトに弊社CSRレポートが掲載され、多方面からの反響があった。年1回5月頃に4月～3月の1年間の環境活動実績をレポートをまとめ、本社、三郷エコロジー、インターネット等で公表する。

(2) クレーム、相談等の窓口の設置

万が一クレームや問い合わせ相談があった場合に備え、担当者を決め、相談・クレーム等の内容とその対処や回答などを記録した問い合わせ台帳を準備した。なお、2017年3月現在、クレームは発生していない。

(3) 地域活動

本社、三郷エコロジー周辺の清掃活動に加え、多様な環境維持保護活動に取り組む。本社、三郷とも土地の一部を地域に開放し、緑化スペースを設け、街に潤いを提供している。また周辺には、ビオトープを設け、小規模であっても昆虫や鳥類などの生息するスペースを準備していくこととする。また、足立区役所が所有する区画整理事業用地を活用した「六町エコプチテラス」を運営する足立グリーンプロジェクトに対し、継続的な支援を行っていく。

(参照: <http://www.greenproject.net/modules/news/>)

(4) 産業廃棄物優良事業者の認定に向けた取り組み

弊社では、「産業廃棄物処理事業者の優良性評価」における優良事業者の認定を目指し、(財)産業廃棄物処理事業財団による産廃情報ネットにおいて、遵法性、情報公開性、環境保全への取り組みに関して、情報公開を行う。

(参照: <http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/>) 実施にむけて準備を進めている

5. 環境上の緊急事態の想定結果及びその対策

5-1. 緊急事態の想定結果及びその対策

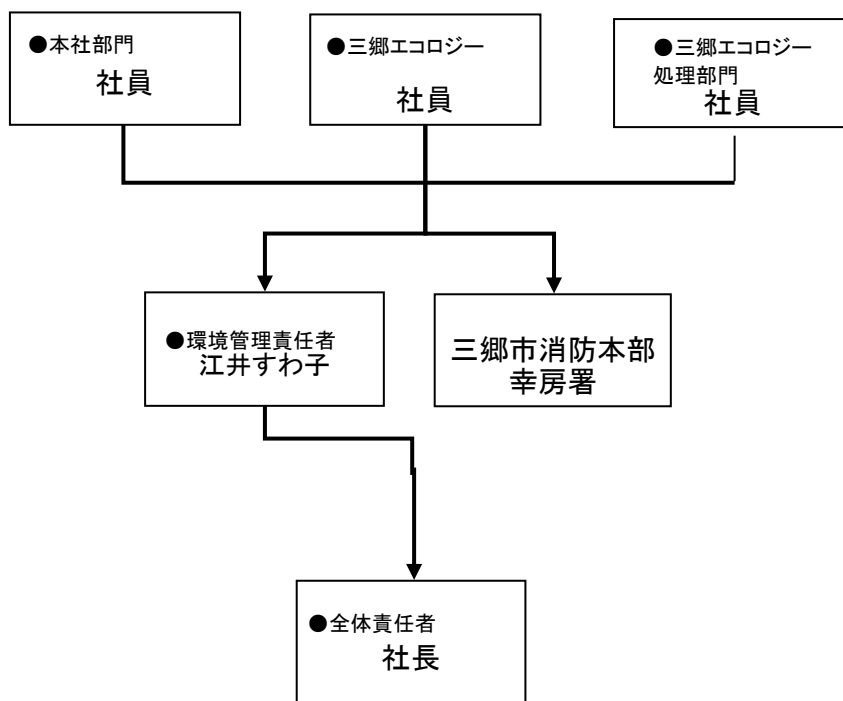
緊急事態の想定内容

- ・ 天災時による落下物等による怪我
- ・ 木くずの自然発火による火災

緊急事態の対策内容

- ・ 三郷構内によるヒヤリハットの抽出
- ・ 作業終了時の木くずの確認
- ・ 消火器の設置
- ・ 緊急時を想定した避難訓練の実施
- ・ 本社、三郷間の緊急連絡網の整備

緊急連絡網



5. 環境上の緊急事態の想定結果及びその対策

5-2. 訓練結果

(緊急事態の想定) 地震発生後の木くずの自然発火による火災

実施場所; 三郷エコロジー

実施月日 2018年11月5日

当社作成 緊急事態対応手順

- 1) 構内の従業員に通報 初期消火に努める
- 2) 消防所・本社へ連絡
- 3) 構内より避難
- 4) 責任者は、従業員の点呼・安全を確認



避難訓練後、問題点・注意点など抽出を行いました。

消火器の放射時間が短く感じられた

火が消えたように思ったが消えておらず2本目で消えた意外と消えない事が解った

初期消火出来ない場合速やかに避難が必要

消化薬剤は広い範囲に広がる為風向きに注意が必要

薬剤に包まれると視界がまったく利かない事が解ったなど

緊急事態に対し確実に対応できる様 改善をし、被害拡大防止に努めています。

●訓練(緊急事態の想定) 災害伝言ダイヤル体験学習

(171)災害伝言ダイヤルを体験学習を実施致しました。

音声ガイダンスに沿って操作するが、ミスが多かった。

伝言を30秒録音出来るが30秒は長く焦らなくても良い事が解った。

伝言再生してみても 音声クリアに聞こえる事を確認出来た。 など

緊急事態として、地震発生時の木くずの自然発火を想定し、避難訓練を実施致しました。

6. 関連法規

弊社の事業に係わる関連法規は下記のようなものがあり、その徹底遵守を図ります。
なお、昭和45年の創業以来、環境関連法規に関する行政指導、改善命令等は受けておりません。

6-1. 関連法規一覧

関連法規名	
産廃関連法規	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
運行管理 関連法規	道路運送車両法
	貨物自動車運送事業法
	道路交通法
環境保全 関連法規	騒音規制法
	埼玉県生活環境保全条例、フロン排出抑制法
開発関連 法規	消防法、計量法

6-2. 関連法規の遵守に向けた体制

(1) 関連法規の事務所への備え付け

- ・上記の関連法規の全文もしくは抜粋を書籍もしくはファイルにして、三郷エコロジーに備え付ける。
- ・情報更新は、関連団体から情報提供などをもとに、常時行うこととする。また、毎年12月に情報更新の状況を社内監査し、必要がある場合は適宜インターネット情報等を元に更新することとする。

(2) 実績の報告

- ・産業廃棄物処理業、一般貨物運送業については、年に一度(6月)関係行政当局に、その事業実績の報告を行う。

(3) 環境指標の測定

- ・弊社施設では、破碎機を埼玉県へ特定施設として届け出ており、定期的に敷地境界線上で、騒音の検査を行い、社内監査時に報告を行い、検査の結果50デシベル前後の数値だった(担当:環境管理責任者)。これ以外の項目については、必要に応じて適宜行うこととする。

【なお、環境関連法規に関する行政指導、改善命令は過去3年間受けておりません】

7. 全体の取り組み状況評価と改善項目

●代表取締役 江井 弘

・総評

大きな課題であるCO2排出量については基準年2014年にくらべて着実に減少しているのでエコ活動が地道に根付いていることを確認した。産廃のリサイクル率は安定しているが、収集運搬のリサイクル率が減少したことはきめ細かい作業に努める必要があると思われる。

ガソリン使用量は前年と比較すると28%の削減を実現した。特に三郷エコロジーにおいては40%減少しエコ活動の成果の結果が顕著に表れたものと思われる。収益に大きく影響する軽油の使用量は年々減少しているが本年燃費効率が大きく落ちたということは稼働している車の運送効率が落ちていることを如実に表している。車両の性能とともに無駄走り、エコ意識が欠如した運転を行っていないか厳しく精査すべき項目である。収益向上、エコへの意識向上を目指し会社一丸となって邁進することを望む。

2018年12月18日

指示事項

Co2排出量が減少していることは評価できるが細かく見ていくと削減を必要とする事項が少なからず認められる。一層のエコ意識の徹底を望む。収集運搬におけるリサイクル率の向上と、運送効率の向上を重点目標として事業活動を営むことを望む

コラム ～シンプルエコファクトリー『三郷エコロジー』

●三郷と我が社の新しい中間処理施設「三郷エコロジー」

三郷市は、埼玉県南部に位置し、江戸川と中川、二つに川に挟まれた街である。江戸川の東隣りは千葉県であり、また南は東京の葛飾区に接する。三郷を含め、埼玉県の最東端は元々葛飾と呼ばれる地域であり、国も武蔵ではなく下総であった。

三郷はまさに水郷の街であった。古くは、荒川、隅田川、利根川、渡良瀬川などが、この地を通過して今の東京湾へ注いでいた。度重なる大規模な河川改修を経て、現在の河路の原型が出来たのは、江戸も中期になってからのことであり、それ以降、新田の開発が盛んに行われたという。屋敷林に囲まれた農家、畦にハノキが続く水田の間を、江戸への物資や野菜を運ぶ舟が進むというのが、この街の風景だったという。現在、街は大きく姿を変えた。かつてからの農村風景に加え、東京のベッドタウンとしての顔、産業都市としての顔、そして高速道路がクロスする交通の要所としての顔を持つ街へと三郷は変化している。

産業廃棄物の中間処理施設である「三郷エコロジー」の設置にあたり、わが社では次の5つのことに留意した。

まず第一に、この三郷という街の立地条件と歴史に配慮した施設づくりを行うこと。この場所が育んできた特性を十分に発揮してこそ、地域と共に成長することのできる施設となると考えた。

第二に、自然の持つ力を生かすこと。風が吹けば涼しく、日が昇れば暖かいように、自然の持つごくごく当たり前の力を活用することとした。これにより、エネルギー面での無駄を省くとともに、自然と結びついた心地よさを施設内に生み出したいと考えた。

第三は、資源のリサイクルである。「三郷エコロジー」は、プラスチックと木を中心とした多様な廃棄物を再び資源化するための施設であり、その空間形成にあたっては可能な限り再生素材を採用するのみならず、ここで使われる建築素材が100%リサイクル可能であることが必要だと考えた。

第四は、新しいことへのチャレンジである。環境面において、一つでも二つでも新しい提案を社会へ投げかけたいと考えた。

そして第五に、心地よさ。手に触れるもの、目に映るものなどの心地よさと、環境面での配慮とは両立するものと考えた。

表現を変えるならば、地域共生、自然共生、資源循環、先進性、そして五感、この5つに留意したのである。

●自然の力を活かすのがまず第一

エネルギーについてはまず、無駄なく心地よい環境をどうしたら創れるか、現場を見ながら考えた。

「三郷エコロジー」は、巨大な三郷インターチェンジに面している。昼夜を問わず、車が走行する音が聞こえてくる環境ではあるが、その反面、空が大きく開けているという特徴がある。まずは、日照を良くし、太陽の光と熱で、作業や事務がしやすい就業環境を生み出そうと考えた。このため、三郷インターチェンジに向けた南側においてはガラス面を大きく取り、陽が直接施設内に入り込むようにした。また夏場の暑さに対しては、簾の設置で対応を図っている。簾は水郷・三郷の伝統的な工芸産物であるが、この取付けおよび上げ下げを容易に出来るようにすることで、作業員が日射を調整できるように設計した。

続いては風だ。地域気象観測所によると、三郷は平均風速が1.5m/秒とかなり緩やかな地域である。とはいえ、たとえ微風であったとしても、夏場には心地よい涼気をもたらしてくれるものだ。三郷では夏、東北東から東よりの風が吹く。窓の向き、位置については、風向をもとに配置計画を行った。

太陽光発電、風力発電も採用しているが、これはあくまでも補助的なものである。まずは自然の持つ力を活かすことで、電力消費自体を低減することを重視したのである。

施設内の照明計画にも配慮し、省電力型の照明を使うとともに、不要な点灯を防ぎ、きめ細かく消灯可能にするため、スイッチ系統を複数化するなど、小さなところからのエネルギー削減にも取り組んでいる。また、消費電力が小さく耐久力が高いLEDについては、部分的な採用に留まっているが、今後低コスト化が進む中で、より積極的に導入を図りたいと考えている。

水については、雨水を積極的に活用することとした。敷地面積の10%以上を占める植栽への散水については、雨水升、ビオトープ池に貯留した雨水を使用することにし、水道水は極力使わないこととした。雨水升の水は、洗車にも活用する予定である。

●「処分」から「再生」へ 物の循環を生み出すのが使命

たとえ小さな存在であっても「三郷エコロジー」が首都圏における資源循環の確かなハブとなることを我が社は願っている。世界を旅した船がドックでの整備を経て、再びフレッシュな状態で次の航海へと出るように、一旦廃棄物として排出された物質も「三郷エコロジー」を通過することで新たな生命を吹き込まれ、素材、原料として再び市場へと戻っていく、そんな処理やルートづくりがまさにこの施設の使命なのである。また顧客から頂いているのは処分費ではなく再生費だと考えるよう認識を改めることとした。価値の源泉は再生にあり、そう考えるためだ。

施設の建設にあたって、物の循環の視点は、重視すべきポイントだった。まず、物の循環を推進する施設であるため、リサイクルが困難な素材は一切使わないことを大前提とし、建築家および施工業者との折衝に入った。結果、太陽光発電などで、一般的に再生が困難な素材を使用したものの、ほぼ100%に近い再生可能素材率となった。また再生素材の積極的な利用も行ったが、特に力を入れたのは、弊社を經由して再生された素材の活用である。具体的には、ボード類、骨材、塩ビなどであり、目に見えるところでは、事務所のテーブルや棚、車輛用安全用具などに利用した。

●小さくとも季節感のある空間

自らのあり方が地域や地球に何らかの影響を与えている、そのことにまず気づくことが環境を考える上での要諦である。そしてその気づきの原点の一つは、自然と直接触れあうことであろう。「三郷エコロジー」が位置する三郷インターA地区では地区計画が定められており、工業ゾーンでは、道路から3m以上のセットバックが必要となる。特に私たちの事業用地は、北側と南側それぞれが接道しているため、道路から合計6mのセットバックを行うことになる。私たちは、この空間に「ビオトープ」「地域共生」「シンボル」3つの役割を与えることとした。まずはこの土地の自然的・歴史的な植生をふまえてケヤキとハンノキを植樹した。夏は木陰をつくり、冬は日の光を降り注がせる落葉樹は、自然の持つ力を最大限活かすという今回のプロジェクトを象徴するものとなるだろう。続いて低木には、最新のバイオ技術が生み出した新種のクチナシを採用した。この樹はNoxの吸収力に優れ、空気浄化作用を持つと同時に、初夏にはあの甘い香りを街にもたらしてくれるだろう。木々の合間には小さいながらも雨水を利用した池をつくった。これは旧作業場のすぐ横にあった小さな水たまりから学んだものだ。水郷の街である三郷では、たとえ小さなスペースであっても鳥や水棲動物などがどこからか訪れ、なかにはそこに住みつくものすらあるのである。

●シンプルエコファクトリー

私たちの「三郷エコロジー」は、1000㎡程度のごくごく小さな施設でしかない。そしてまた資金的・事業構造面での制約から、大がかりな地域貢献が出来るわけでもない。しかし、私たちが築いたこの施設は、わずかなりとも社会に問いかけるものを有すると考えている。一言に要約するならばそれは『Simple Eco Factory』。つまり「三郷エコロジー」は無駄を排した環境共生施設、つまりシンプルなエコファクトリーであると同時に、自然の持つごく当たり前な力を活かした施設、シンプルエコを重視したファクトリーでもあるのだ。従来のエコプロジェクトでは、エネルギーの削減比率等数値的なものを追求するあまり、複雑な設備の導入ばかりに目が向きがちだった。施設の中央にケヤキを植えたのは、まさにシンプルエコの象徴としてである。この樹は作業員に緑陰と心のゆとりをもたらすとともに、適正な廃棄物の処理と環境汚染ゼロのパロメータとなるであろう。私たちは、今はまだ幼いこの樹を大樹へと育て上げなくてはならない。